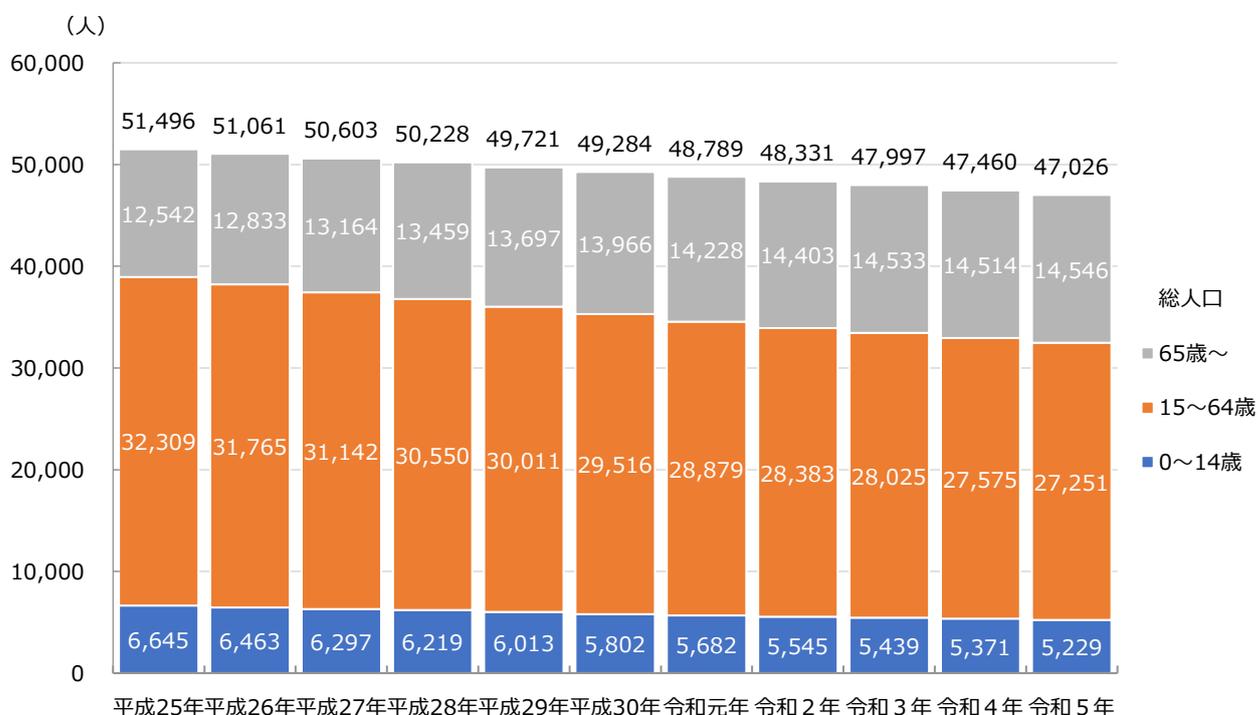


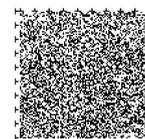
第2章 富士吉田市の障害者の現況

1 人口の推移

富士吉田市の人口は減少傾向が続いており、平成25年から令和5年の間に、4,470人(8.7%)減少しています。年齢区分別に見ると、0～14歳(年少人口)は1,416人(21.3%)の減少、15～64歳(生産年齢人口)は5,058人(15.7%)の減少、65歳以上(老年人口)は、2,004人(16.0%)の増加となっており、少子高齢化が進んでいます。

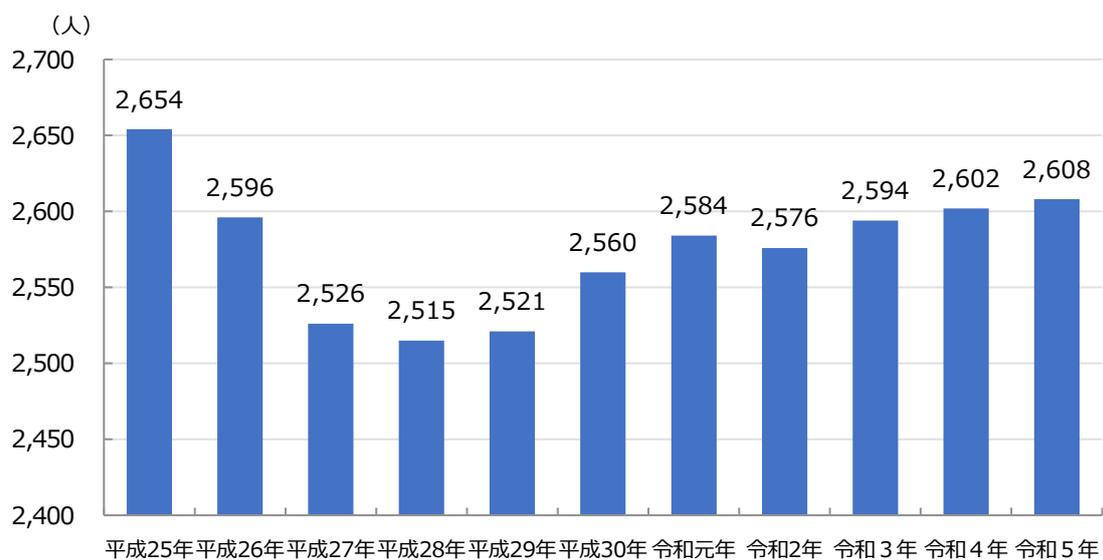


出典：住民基本台帳、各年4月1日現在

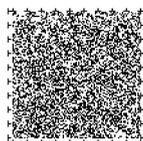


2 障害者手帳所持者の推移

平成 25 年から令和5年までの障害者手帳所持者数を見ると、平成 28 年まで年々減少しましたが、平成 29 年以降は令和2年を除き、増加傾向にあります。



出典：福祉課 各年3月31日現在



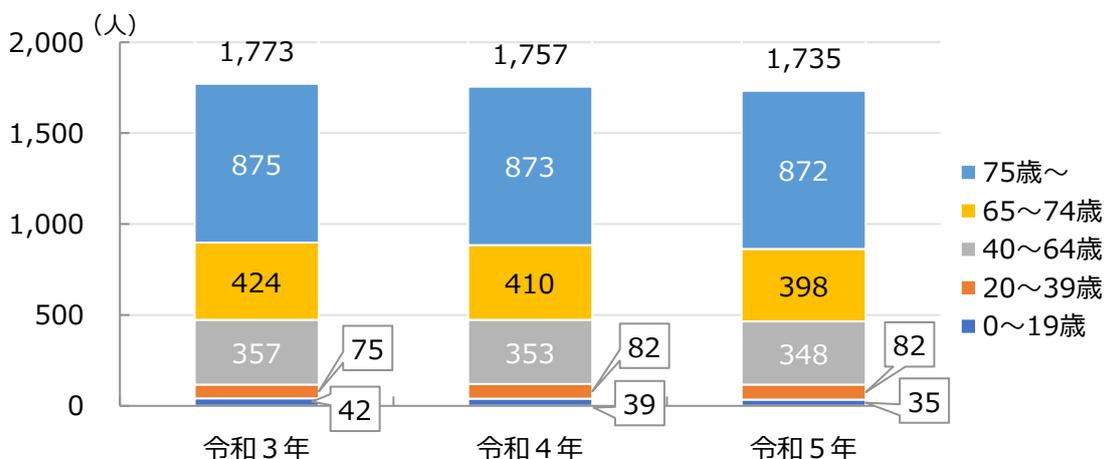
3 障害者手帳所持者の現況

(1) 身体障害者の現況

① 年齢階層別の推移

令和3年から令和5年までの年齢階層別身体障害者手帳所持者の推移を見ると、どの年齢階層でも減少もしくは横ばいとなっています。

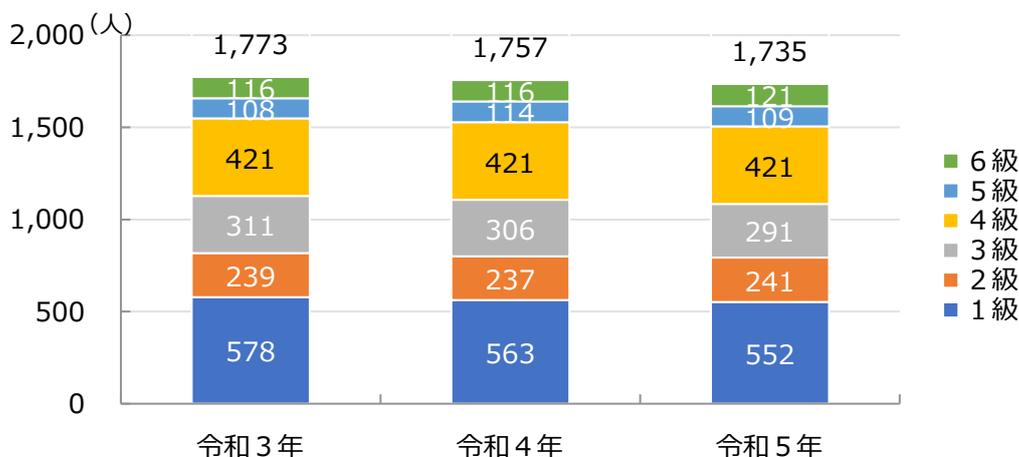
全体では減少傾向が見られ、特に令和5年は前年から22人の減少となっています。



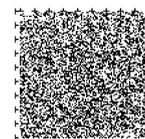
出典：福祉課 各年3月31日現在

② 等級別の推移

令和3年から令和5年までの等級別の推移を見ると、最も程度の重い1級及び3級で減少傾向があり、特に1級所持者は、令和3年から令和5年にかけて26人の減少となっています。

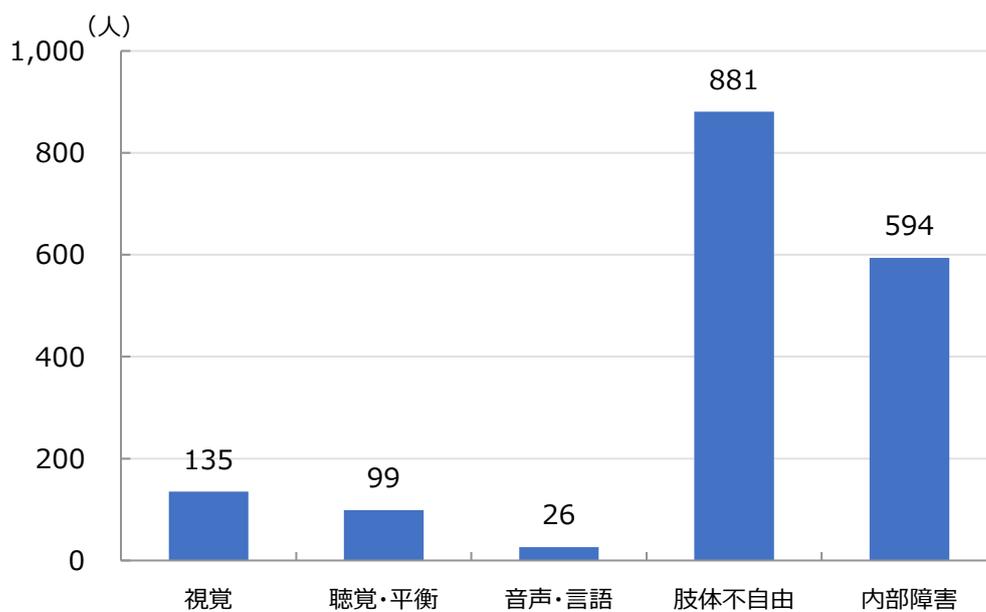


出典：福祉課 各年3月31日現在

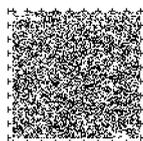


③ 種類別の状況

令和5年3月31日現在の種類別身体障害者手帳所持者は、肢体不自由が881人で最も多く、全体の51%とほぼ半数を占めています。次に多いのが内部障害の594人で、全体の34%となっています。



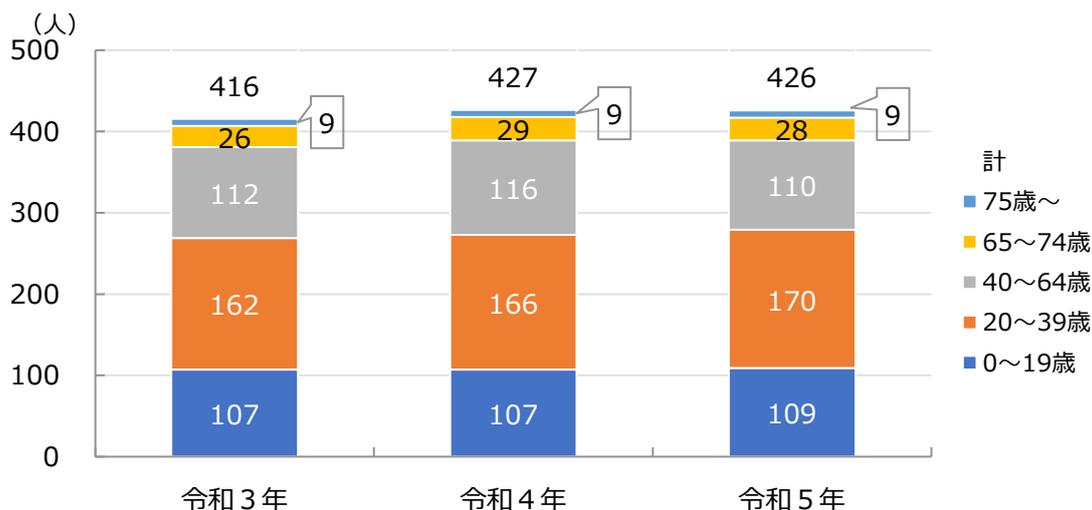
出典：福祉課 令和5年3月31日現在



(2) 知的障害者の現況

① 年齢階層別の推移

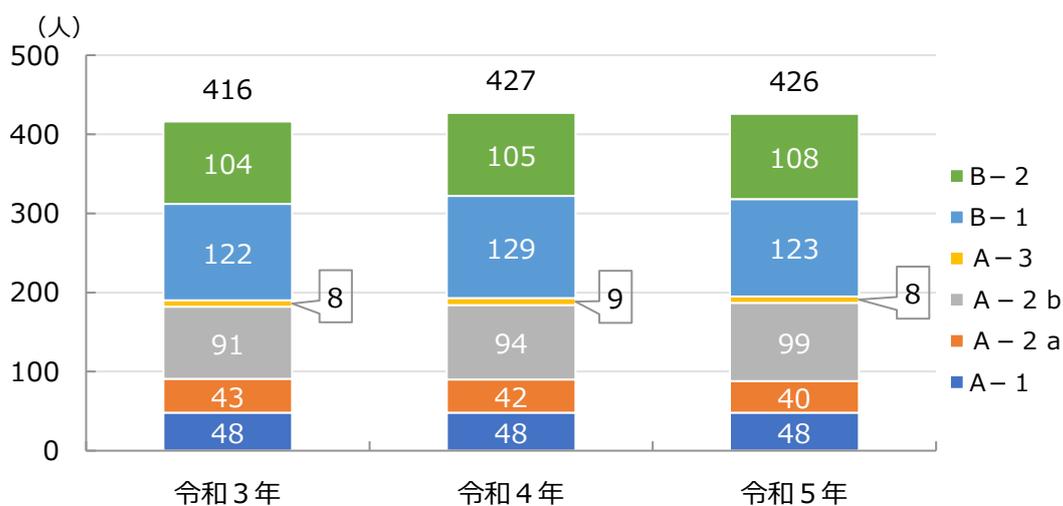
令和3年から令和5年までの年齢階層別療育手帳所持者の推移を見ると、20～39歳の階層で特に増加傾向となっています。
全体では令和4年からほぼ横ばいとなっています。



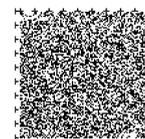
出典：福祉課 各年3月31日現在

② 等級別の推移

令和3年から令和5年までの等級別の推移を見ると、A-2bが増加傾向にあり、他の等級はほぼ横ばいとなっています。



出典：福祉課 各年3月31日現在

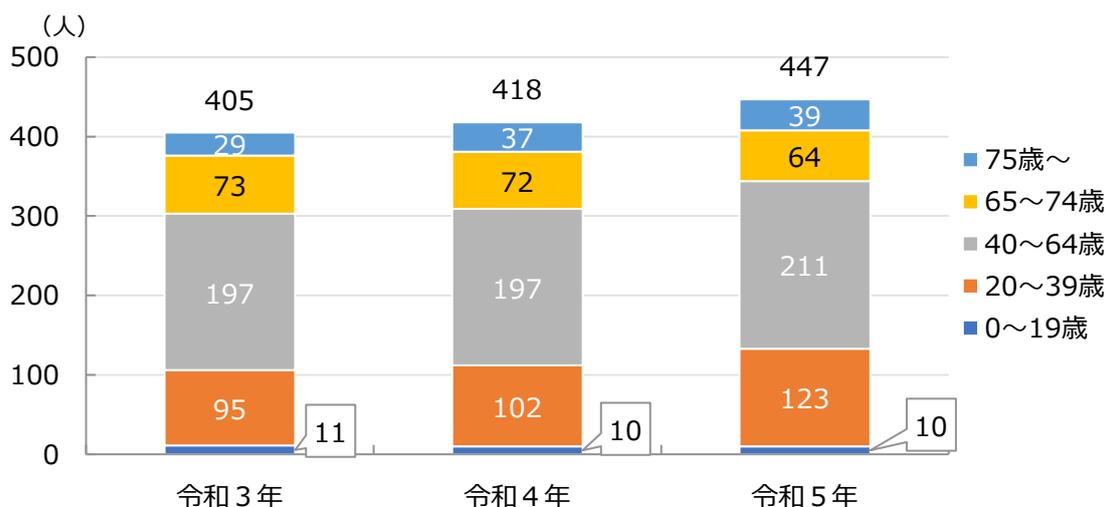


(3) 精神障害者の現況

① 年齢階層別の推移

令和3年から令和5年までの年齢階層別精神障害者保健福祉手帳所持者の推移を見ると、20～39歳及び40～64歳の増加が顕著となっています。

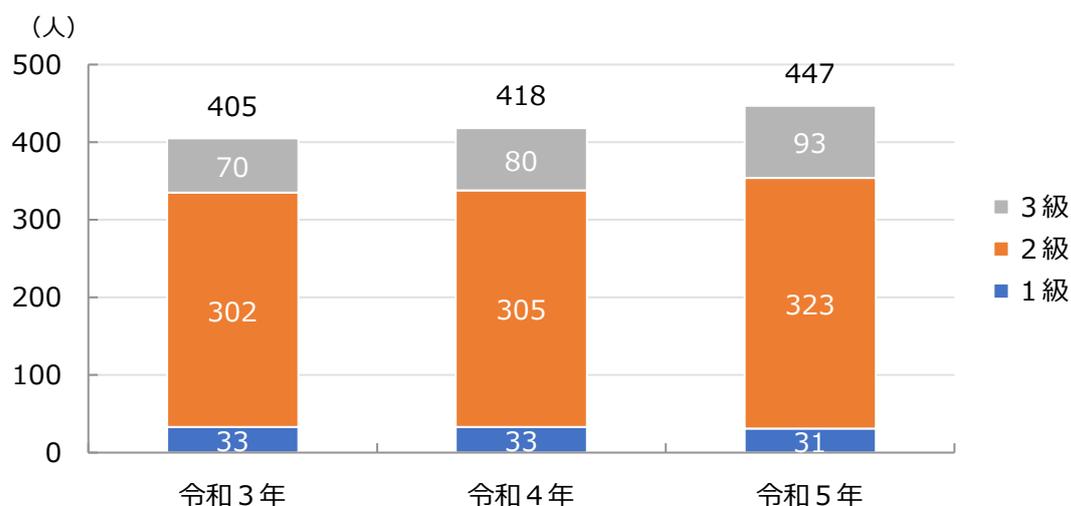
全体では増加傾向にあり、特に令和5年は前年から29人の増加となっています。



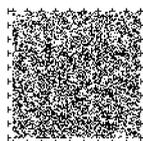
出典：福祉課 各年3月31日現在

② 等級別の推移

令和3年から令和5年までの等級別の推移を見ると、最重度の1級は減少傾向にありますが、2級および3級は増加傾向にあります。



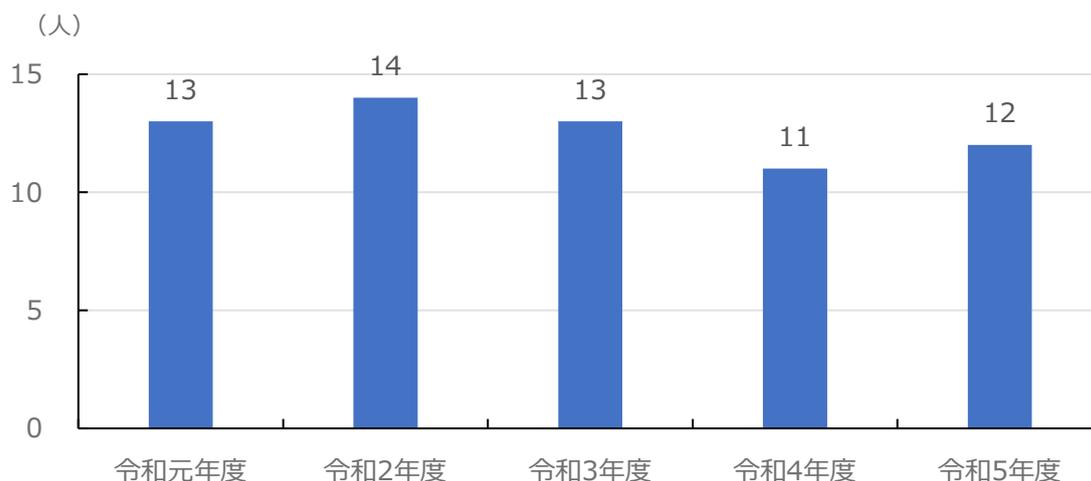
出典：福祉課 各年3月31日現在



4 保育所等における障害児の在籍状況

(1) 保育園・幼稚園

令和元年度から令和5年度までの保育園・幼稚園の在籍障害児数の推移を見ると、12人前後で横ばいとなっています。

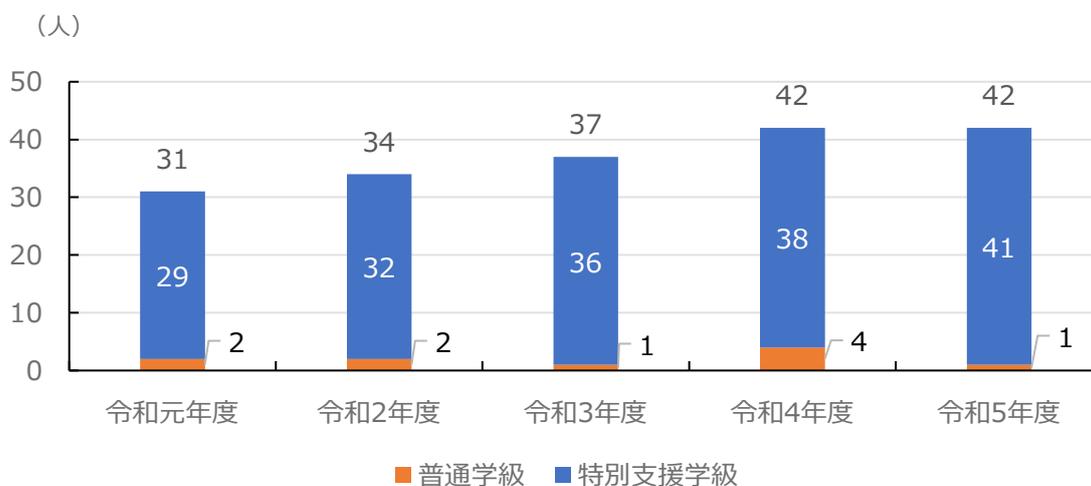


※富士吉田市民のみ、認可外保育施設除く、マザーズホーム含む

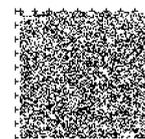
出典:福祉課 各年度4月1日現在

(2) 小学校

令和元年度から令和5年度までの小学校の在籍障害児数の推移を見ると、普通学級は横ばいとなっていますが、特別支援学級は増加傾向にあります。

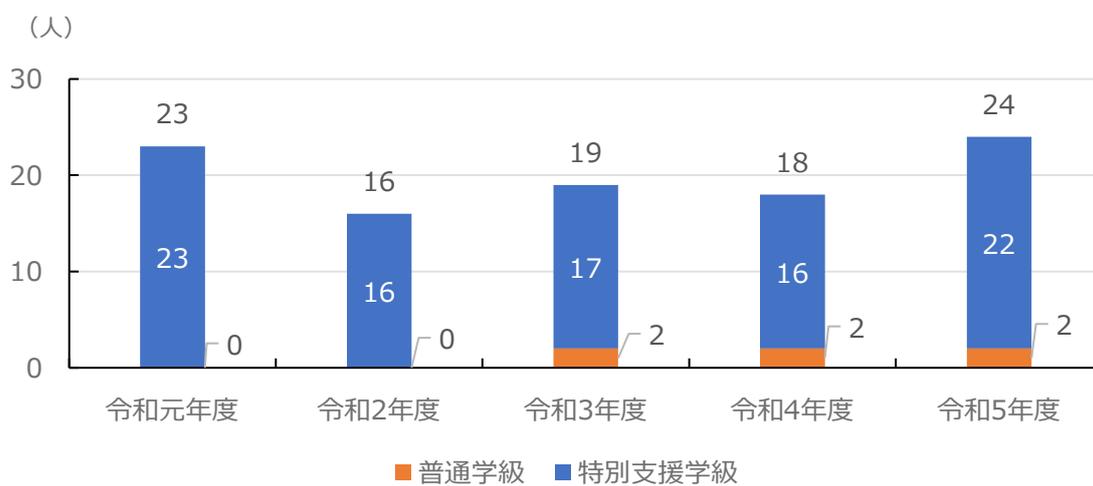


出典:福祉課 各年度4月1日現在



(3) 中学校

令和元年度から令和5年度までの中学校の在籍障害児数の推移を見ると、普通学級は令和3年度から2名で横ばいとなっていますが、特別支援学級は20人前後で推移しています。



出典：福祉課 各年度4月1日現在

